

2022年
11月1日
No. 135
隔月1回発行

特定非営利活動法人
レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク会報

ひきこもり

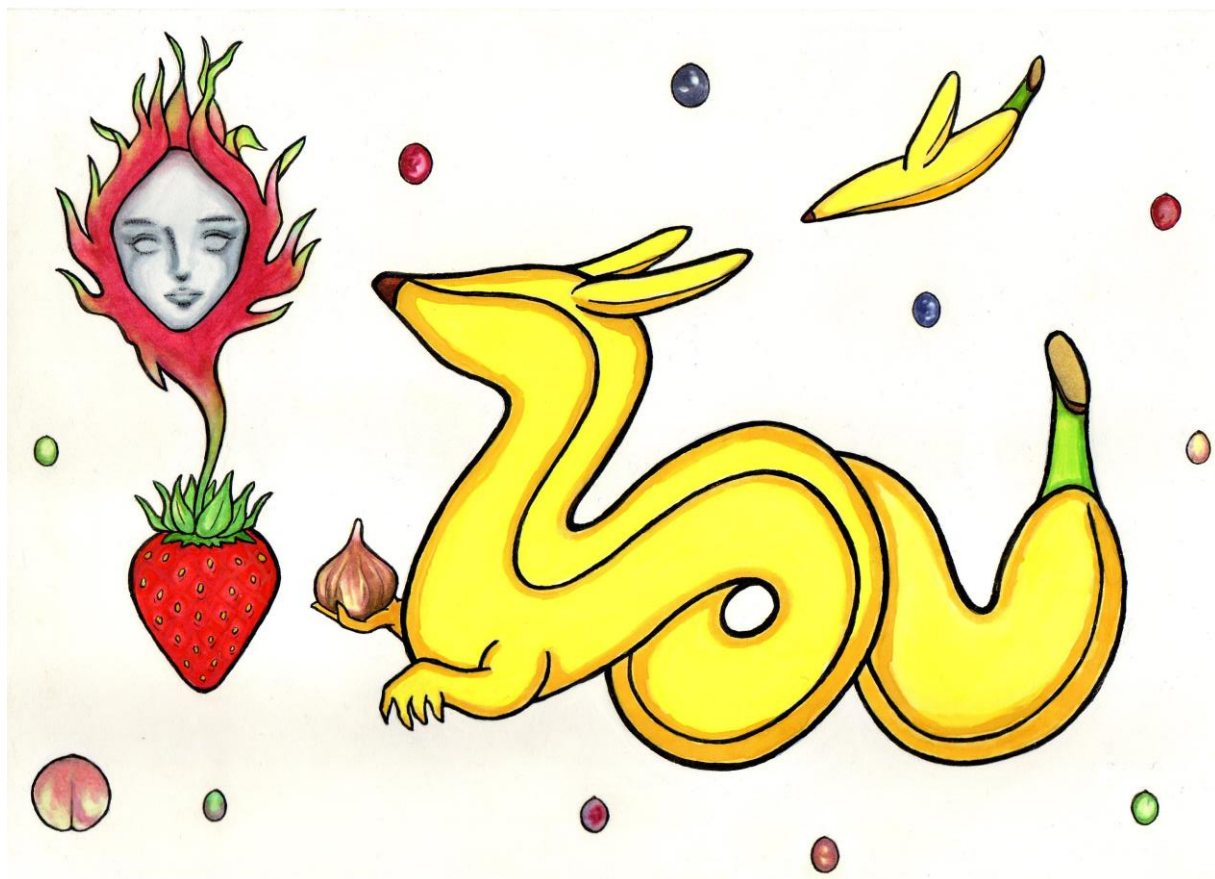


イラスト 小松 英行



会報は札幌市さぽーとほっと基金助成事業・ひまわりピア・サポート基金により作成されています

Index

- 2ページ 活動報告: サテライト事業でピアスタッフが話題提供
- 3ページ 札幌市議が当NPOの実態調査のためヒアリングを実施
購読者ハグレメタルさんからの投稿
- 4~5ページ
両親の見送り体験から語る『8050問題対応』
大橋史信氏の講演(後編)
- 6~7ページ
札幌市議会、北海道議会でひきこもり対応について質疑
応答
- 8ページ こちら事務局/編集後記

サブライト事業でピアスタッフが
話題提供

小樽市、苫小牧市、江別市で実施したピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営事業で、当事者と家族のピアスタッフ自らがテーマを決めて話題提供をした。10月に開催された話題提供の内容の一部を採録する。

公的な支援を受けることの意味

小学6年生のときの転校が契機となり学校に馴染めず不登校になり、成人後もひきこもり続ける38歳の長男に「何故ひきこもったのか」と尋ねたら「常に母親が不機嫌で情緒不安定で、父親は家に居てほしい時にも仕事で忙しく不在だった」と答えた。振り返ると息子には申し訳ないのだが、その当時不登校にならないように駆り立てたことが悪かったと思う。「考え方の違う父母が同じ方向を向いて歩いてほしい」というのが息子の願いだ。

時代の変化により地域や近所で助け合う形は無理な世の中になったので、家族以外でお世話したりされたりする関係に慣れる必要がある。だからこそ公的なサービスを受けることに目を向けたいと家庭の再生は難しい。

具体的には、長男は就労継続支援を受けるために障害福祉サービス受給者証を取得。障害者手帳も取得して交通費の支給や減税面での恩恵を受ける。また自立支援医療受給者証

を取得して精神科受診費用を1割に減免してもらい、最近では障害年金手帳も取得して定期的な年金が受給されるようにした。親が生きている間にできることはしていきたい。岩崎家族ピアスタッフ（10月6日／苫小牧）

できることからはじめ自信を身につける

40歳になる次男は中学1年から不登校になり、今年でひきこもり29年目になる。かつては部屋のカーテンを閉め切り、壁に穴を開けたり家具に火をつける。着替えはしないような生活が続いた。

ひきこもりが7年経過したころテレビ番組をみて笑つようになり、私と一緒に漢字パズルをするまでに親子関係が落ち着いてきた。また、次男にパソコン操作を教えてもらうなど、本人の興味関心あるものを通して自信をつけていくことは大事だと思う。

私は全国ひきこもりKHHJ家族会連合会北海道「はまなす」の会長を務めている。活動にまつわる連絡を次男のパソコンのメールアドレスに設定し、田中事務局長（当NPO理事長）から届いたメールを次男が受け取り、私が内容を確認する。印刷が必要な場合は印刷してもらったり次男に事務局の仕事を手伝ってもらったり仕組みをつくった。これは私にとって助かることであり次男には感謝している。

今年の9月、私が運転する車が山中で自損事故を起こし全身打撲を負った。その後次男は食事をつくり、それまで行きたがらなかった買物も同行してくれるようになった。

このような経験が「やればできる」という自信につながるように感じる。北郷家族ピアスタッフ（10月22日／江別）

ひきこもり当事者とみられることに違和感はあるのか

「ひきこもり経験者」という語感にはひきこもりを解決した意味合いが強いが、私は必要に応じて外出することはできても生きづらさは現在進行形で続いている。いつひきこもりに戻るかわからないし、当事者性はまだある。状態像は固定化しない方がよい。

大橋ピアスタッフ

私は「ひきこもり当事者」ということを隠すと後ろめたさが強くなり辛くなる。テレビ取材を受けた際は実名と顔を出したが、その理由は「30代ひきこもり当事者」という形で自分を紹介されたくはなかったからだ。状況にもよるが、ひきこもりであることを堂々と告知すると意外に周囲から何も言われない。

尾澤ピアスタッフ

私はピアサポート活動では匿名で出席し、実名顔出しの取材は受けない。それは今後就職した場合、他者から「あの人はひきこもりだ」と思われることへの抵抗感があるからだ。「ひきこもり経験」は評価されにくい。ひきこもりの経験を有した者でしかわからない気持ちなど共有できることは価値あるものだと思う。

へとりピアスタッフ

（10月20日／小樽）

札幌市議が当NPOの実態調査のためヒアリングを実施

9月9日金曜日、札幌市議会議員である熊谷誠一さんが事務局を来訪しました（写真-1）。今回会場としてNPOの実態調査を行い、そこで明らかになった「財源の問題」や「後継者の問題」等を挙げ、制度の狭間に置かれていた人たちを支える実働NPO団体に聞き取りをしているということでした。

当NPOも23年の活動実績があり多くの人たちに知られている団体として今回ヒアリングを受けることになりました。札幌市では認定NPO法人になっているところが少ないという指摘も受けていることが話されていますが、当NPOからは認定NPO法人認可を受けたくてもそれに見合う総収入における寄付金額が到達していないなど弱小団体にはハードルが高いこと。またNPOはまだまだボランティア活動で良いみたいなどころがあり、社会的評価活動に応じた対価が支払われない課題を述べました。

当法人は2020年度に会派に協力して「都市型ひきこもり対策推進10か年計画調査研究報告書―札幌市モデル事業構築を目指して―」をまとめました。そこでも「ひきこもり循環型共生社会」を提案し、否定的に見られやすいひきこもり経験値を活かしたピアサポート活動の効果認め、彼ら彼女らの自律

意欲につながる報酬保障が、多くのひきこもり当事者の社会参画につながり、納税者として社会に還元されていく道筋になることを述べています。

それぞれの貴重なひきこもり体験をキャリアとして認める、そんな取り組みが充実されていくことを願っています。（田中 敦）



（写真-1）札幌市議会議員・熊谷誠一氏（右）と田中理事長

SANGOの会 15周年記念イベントのお知らせ

公益財団法人北海道地域活動振興協会令和4年度ボランティア活動支援事業助成金「新型コロナ禍に起因するひきこもり対応型オンライン居場所支援拡充事業」として当事者グループSANGOの会が15周年記念オンライン企画イベントを開催いたします。皆さまのご参加をお待ちしています。詳細は別紙チラシ、団体ホームページをご覧ください。

購読者ハグレメタルさんからの投稿 「父」

父親は、ただただ暴力と暴言で私たち家族に恐怖というものを与えてきた。結果私たちは父にマインドコントロールされた。子どもを必死に守ろうとしていた母に暴言を吐く父。それを守ろうとする子ども3人。私が先頭になり盾になってきてしまった。弟2人は私が父から受けた暴力と暴言をみて「とても辛かった」と最近言ってくれた。何度悔し涙を流したことが。父も若かったせい人間ではなかった怪物でした。その一人の怪物に私たち4人が必死で戦ってきたけれど、とても太刀打ちできなかった。結果4人中3人が今でも心に傷が残り、心の病気になるてしまいい今でも苦しんでいる。心の病気になるてしまったというか、なれなかった次男がもしかすると一番辛かったのかもしれない。

父は仕事一筋の人でした。私は父がとても怖かったので、必死に働いていた。私は心も体もぼろぼろでした。ただ父が怖いということでロボットのように仕事をしてきた。

父も母も若かったので子どもを育てる力がまだまだ身についていなかったのだと今になって思う。そして両親に対しては今では感謝している。最後に私たち3人の兄弟は泣くこともできず、物にあたることもできなかった。悔しかったらオシの顔を殴ってみるとも言われことが一度だけあった。

両親の見送り体験から語る『8050問題対応』 大橋 史信氏の講演（後編）

8月20日土曜日、一般社団法人生きづらさいンクルーシブデザイン工房代表理事の大橋史信氏を講師に迎え、「両親の見送り体験から語る『8050問題対応』」が市内公共施設「かでる2・7」で開催した（写真-1）。本稿では前回に引き続き、大橋氏の発言内容について趣旨を変えない程度に編集を加え採録する。後編では、両親を亡くしたときとるべき対応、心構えのほか、コミュニケーションのあり方などが述べられた。



（写真-1）両親の写真を手にして語る大橋史信氏

父母の死に接して

私の両親は、着る物、食べる物、おもちゃなど買い与えてくれて、習い事も自由にやらせてくれて、手塩にかけて私を育ててくれました。ただ私が一番ほしかったものは「心の話」。自分の気持ちを聞いて受け止めてほしかったのです。

私が大人になり40歳目前のときに父が癌になりました。私は父との関係が悪かったので入院中は見舞いもできませんでした。父が危篤になり意識不明の状態でも15分程度対面したのが最後でした。生前病室から電話があり「母ちゃんの言うことは良く聞けよ」と言われました。そしてもう一言「頑張って仕事してくれ」と言われました。さすがこれは親父だなと思いました。それが最後の会話でした。

入院中父親は母親に対して仕事をしないわが子をもったことについて「ばちがあたった」と言いました。私が思うには父は、この息子に対してどう接すればよかったのかを凄く悩んでいたのだと思います。

父の死後、母親と兄が中心となり葬儀などは行いましたが、いよいよ私の心のなかに親亡き後の不安感が増してきました。私は父の遺骨を目の前にして母親と大バトルをしました。母が「お父さんが亡くなったのだから働いてほしい」など溜めていた親の気持ちが出たのです。それに対して私も自分の気持ちを吐き出し、お互いに泣き尽

くすまで話し合い、母と私は、生きづらさを抱えた方へのライフプランニングと「親亡き後」をサポートする一般社団法人「OSDよりせいネットワーク」に二人で相談しに行きました。そこで母親はそれまで抱えていた気持ちを打ち明けました。「実はこの子が怖かったのです」。その言葉を聞いたときに、ようやく家族が一つになった、分かち合いができたと思いました。

その後母は介護を受けている状況で一度だけ私の講演に来てくれました。その母が今年の1月に生命の危機に直面する状態にまで病状が悪化してしまいました。医師からの余命宣告は2年でしたが実際には4か月で亡くなりました。

8050問題で生じるステータス

両親の死後、現在は兄と二人で相続の含め処理を進めています。ここで伝えたいことは、参加者の親御さんのなかで健康診断を受けていない人がいれば受けてほしい。私の両親に共通することは「我慢強い」「医者嫌い」「人に頼りたくない」。こういった方は健康診断を受けてほしいと強く願います。そして家族に健康診断の結果を知らせて共有してほしい。「痛い」とか「調子が悪い」と言っつのは親の恥だと思っつのはやめて、親自身が抱える痛みや弱みをきちんと家庭内で話せる雰囲気があれば、（親亡き後の）準備すらできません。8050問題を考える際にまず重要なのは親自身が元気でいることです。

親亡き後のポイントとしてよく言っつのは、今8050問題というと精神科医の斉藤環氏などがファイナンシャルプランの観点で金銭面の支援を提

唱されていますが、8050問題の対応で重要な
はお金ではないのです。お金のことも確かに大
事ですが、みなさんもキャッシュフロー表をつ
るとか勉強されていると思います。私が言いた
いことは親亡きあとの準備期間でステージがあ
るのですが、例えば35歳までの子どもの場合
はファイナンシャルプランナーの富中雅子氏の
推奨するやり方で充分です。これが第1ステ
ージ。

東京の家族会では親が亡くなりはじめた
ため第2・第3ステージが必要です。第2・3
ステージとは親が倒れたとき（以降）の状況。
私の親が倒れたときに兄と揉めたことは親の
治療方針を決めることです。病院に対してど
ついう対応をしてもらうか、回復した場合の
介護問題も考えなくてはなりません。次に親
が亡くなったときに更なる課題がのしかかり
ます。

兄弟（姉妹）の重篤化

私の場合、母親の危篤の連絡があり兄と二人
で病院へ駆けつけました。既に心臓のペース
メーカーがピーピーと鳴り放しの状態で対
話もできませんでした。その病院の看護師
からは「いつ連れていってくれますか」と尋
ねられました。つまり病院側は早く病室を空
けてほしいわけです。これはひきこもりの
当事者にとってはとても辛い言葉だと感じ
ます。

母の死後葬儀がはじまります。宗教宗派に
よりますが、例えば仏教の場合、戒名を付
けてもらいお布施をいくら支払えばよいの
か。金額は「お気持ちで」と言われま
すが立場によって数万から数万円を支
払う場合があります。私の両親は

墓を造ってしまいました。お寺の檀家でも
あったので高めの額を支払うことになり
ましたが、親亡き後の処理のなかでは葬
儀や相続よりも大事な部分だと思いま
す。

私と兄とは絶縁に近い状態でしたが、母
が生前加入していた生命保険の受取人名
義を私に変更してくれたのは兄でした。生
前からの準備をしてくれていたようで、亡
くなってからその事実を知りました。来場
されている家族のみなさんのなかで、子
どものために準備していることがあれば
早めに本人に伝えてあげてほしい。そう
すればより残された者が安心できます。
親の見送りの際、兄弟の関係は重要で
す。だからこそ兄弟に対して親亡き後の
準備をしていることを言い残しておくこ
とは大事です。兄弟の関係が上手くい
っていない場合は、ほかの支援者に伝
えておくことが肝要です。

「関心」の目撃者にも「声をかける」

母親は5月に亡くなりましたが、未だに泣
いていません。最近になって「お金と親
はいつまでもない」ということが骨身
に染みてわかります。だからこそ親御
さんは「ありがとう」とか自分の気持
ちを生きている間に直接伝えてくださ
い。よく家族会で「本人と対話できな
いときはメモでやり取りをする」こと
などが提唱されることが多いですが、こ
れではコミュニケーションの練習にも
ならないと思います。斉藤環氏は親と
当事者との間で「おはよう」「おやす
み」「元気？」などの声をかけると
当事者が無視したとしてもし続けるこ
との重要性を述べていました。そうい
った行為が「監視」ではなく「関心」に
つながります。だから

本人の心のドアをどうノックしていく
かが大事な部分です。その意味でレ
ター・ポスト・フレンドの田中さん
はとても素敵な活動をしていると感
じます。手紙やメールといった敷居
の低いところから声をかけて「あ
なたの存在を気にしていますよ」と
いった呼び掛けを続けている。そ
れを繰り返していくことがひきこ
もりの回復に繋がると信じて私
自身も活動を続けています。

生前の父や母は、私に対して抱
いている想いを言ったことがあり
ませんでした。私自身は親に
対して「ごめんね、そしてありが
とう」と伝えただけです。逆に
親たちも言いたかったのではない
でしょうか。親の気持ちは「言
葉」で発してください。上手い
下手は関係ありません。やっ
てみようという気持ちが大事
です。

おわり」

親や家族が孤立してはいけません。地
域にあるひきこもり支援機関の
人たちに「助けて」と声を
上げてください。また地域包
括支援センターのケアマネ
ージャーは頼れる存在として
覚えておいてください。

「生きていること自体が仕事」。ひ
きこもりの人たちも生きている
というか仕事をしています。
「どういう生き方をすればよ
いか」を考えているので見守
ってください。本人がもう一
度社会を信じてやっていくこ
うと思うときは必ずあります。
ひきこもりは誰にでも起こる
ことで、急げやわがままでは
ありません。恥ずかしいこと
でもない。一生懸命考えて生
き抜いている人です。そのよ
うに捉えてもらえると、いち
当事者として嬉しいです。

札幌市議会、北海道議会でひきこもり対応について質疑応答 居場所「よりどころ」は精神的安定を得られる支え合いの場

北海道議会第3回定例会の質疑内容の概略 (9月22日)

檜垣 尚子議員（自民党・道民会議）の質問

さきの第二回定例会において、行政、民間団体、NPOなどと連携を推進し、道が事業のあり方や支援に取り組む際の基本方針を策定するなど道としてのひきこもり支援の強化する必要があるのではないかという質問に対し、知事からは個人に寄り添う支援につなげるため多様な選択肢を検討することが重要。市町村に相談窓口の設置をはたらきかけるほか、地域ごとに官民が連携できるプラットフォームを設置し、ひきこもりも含め生活困窮者の実態把握や新たな支援事業をすすめるとの答弁をいただいたが、現在の取り組み内容と進捗状況はどうか。また、今後のひきこもり支援に向けた基本方針の策定を含め道の見解をききたい。

鈴木 直道 知事の答弁

ひきこもりに至った背景や求められる支援も様々であることから、一人ひとりの状況を把握して適切な支援につなげていくことが重要。そのため道ではひきこもり成年相談センターにおいて児童生徒も含めた、きめ細かな相談対応に努めており、専門的観点から対応が必要な方については、学校、市町村、保健所が参画しているセンターとひきこもり支援者連絡会議において、その方の状況課題を共有したうえで、適切な支援につなげる体制を構築している。

一方、各学校では特別な支援を必要とする児童生徒に個別の支援計画を策定しており、今後はこうした情報を道教委とひきこもり成年相談センターで共有するなどして、ひきこもり状態にあることが心配される生徒に寄り添った支援に努めていく。

東谷 栄一 保健福祉部長の答弁

市町村窓口の設置については道では本人や家族が身近な地域に必要な支援に結びつくよう各市町村に、ひきこもり相談窓口をはたらきかけ、9割が設置している。これらの市町村に対しては相談体制が早急に整えるように引き続き設置の必要性について理解促進をしていく。

また官民連携のプラットフォームを早期に立ち上げ、今年度中に各振興局単位で連携体制や支援方策などを協議する場を設置していく。

今後このプラットフォームが生活困窮するひきこもりの方々について、ひきこもり成年相談センターや保健所が連携して支援を行っていく。基本的な対応方針については他府県の効果的な事例を収集して来年度見直す。



(写真) 北海道議会で代表質問する檜垣尚子氏
～北海道議会中継ライブより

札幌市議会第二部特別決算委員会の質疑内容の概略 (10月12日)

しのだ 江里子議員（民主市民連合）の質問

私はこれまで代表質問や特別委員会で、高齢化がすすむひきこもりの実態把握を求め、ひきこもりサポーター養成研修や常設の居場所など支援の充実を求めてきた。

私たちの仲間になりませんか 会員募集をしています

正会員	賛助会員	寄付金
入会金 1,000 円	入会金 1,000 円	一口 1,000 円～
年会費 3,000 円	年会費 2,000 円	

入会金、会費納入は、下記郵便振替口座へのお振り込みでお願いします。

- 口座記号番号 02700-4-66261
- 加入者名 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク

札幌市が2018年に行ったひきこもりに関する実態調査により、中高年層のひきこもり当事者が若年層と同様の規模で存在する実態が明らかとなった。これを受け、わが会派では、ひきこもり当事者とその家族など、幅広い世代への円滑な支援が可能となるよう、事業実施体制の在り方を検討する必要性を訴えて、2020年度に子ども未来局から保健福祉局に業務移管されることとなり、一步前進と評価している。

その後、新型コロナウイルス感染症の流行による大きな社会情勢の変化があり、外出機会が減少するなど、以前からひきこもり状態にある方にとっては、外出するきっかけが見いだせなくなり、新たにひきこもりがちになった方もいると考えられる。ひきこもりの状態にある方が再び周囲とつながることは、簡単なことではなく、ひきこもる期間が長くなると、外に出るまでにさらに時間がかかるが、そのような事態にならないよう、早期に相談できる環境が必要であると考え。そこで札幌市のひきこもりに関する相談及び支援の現状について伺いたい。

精神保健担当部長の答弁

相談窓口であるひきこもり地域支援センターでは「電話」や「来所」「メール」、訪問支援である「アウトリーチ」のほか「出張相談」を受けている。相談件数は令和2年度の延べ2,575件から令和3年度の延べ2,858件へと300件ほど増加した。

支援の状況は、ひきこもり地域支援センターが中心となり、周囲がどのように声をかけたらよいかといった関わり方や、親が高齢になった後の生活の相談などについて助言し、適切な支援機関、医療機関に繋げてきた。

集団支援拠点「よりどころ」はひきこもりの方々、その家族が定期的に交流や情報交換ができる居場所を提供しており、精神的安定を得られる支え合いの場として社会参加に向けた意識の醸成につながっている。

「よりどころ」を利用している方の年代は当事者会では20代から60代、家族会では40代から80代となっており、居場所支援を必要とされる方たちの年齢層は幅が広いと認識して

いる。

今後の取り組みについては引き続き、ひきこもりに関する理解啓発活動や「よりどころ」の周知を図ることにより、悩みを抱えている当事者やその家族を相談支援につなげていくための取り組みを行う。

またひきこもり地域支援センターでは、令和2年度に相談員を3名から4名に増員してきたが、今後も相談体制がより充実していくように検討していきたい。

「よりどころ」では、ひきこもりの経験がある複数のピアサポーターや、同じ悩みを抱える家族が参加者に寄り添った支援を行っている。当事者会、家族会ともにオンラインによる開催を含めそれぞれ月4回実施しているが、今後は日時や場所など、当事者や家族が利用しやすい実施方法の検討を続けたい。

しのだ 江里子議員の発言

ひきこもり地域支援センターでは相談員の増員をはかり理解啓発に努めている。札幌市には推計値でひきこもりの方が2万人いるといわれているので更に多くの方に知ってもらいたい。

集団支援拠点「よりどころ」の良さというのは当事者だった人やその家族がピアサポーターとなり、様々な情報交換することが何より大切だと思う。ピアサポーターによる相談者に寄り添った支援を継続するため、ピアサポーターが円滑に支援を行える環境、待遇に関することなど改めて検討してほしい。



(写真) 特別決算員会で質問する しのだ江里子氏
～札幌市議会録画配信より

皆様からの投稿をお待ちしています

〒064-0824 札幌市中央区北4条西26丁目3-2

「NPO法人 レター・ポスト・フレンド相談ネットワーク」事務局 通信編集部 宛

e-mail ; info@letter-post.com



◆居場所「よりどころ」、「SANGOの会」参加に伴う留意事項について

新型コロナウイルス感染防止策として当NPOでは、居場所「よりどころ」当事者会・親の会、また当事者会SANGOの会に安全に参加していただくため、出席にあたっては、マスクを着用のうえ、咳エチケットの徹底、手洗い又は手指消毒を行うなどの留意事項を遵守していただくことをお願いする次第です。たいへん厳しい状況の中での実施ですが、よろしく申し上げます。留意事項については団体ホームページをご覧ください。<http://letter-post.com/>

◆「SANGOの会」例会のご案内

2022年11月~12月は下記日程にて行います。新型コロナウイルス感染拡大による体調不安者に考慮してオンライン例会も併行して実施します。概ね35歳を基点にしていますが年齢に関係なく、ひきこもり当事者や経験者で、同様な仲間と話をしてみたい聞いてみたいと思っている方、またいろいろな情報を得たいと考えている方は、いらしてください。オンライン例会に参加ご希望の方は当NPOホームページから事前申し込みが必要です。詳細は事務局までご連絡ください。

《通常例会》

とき：2022年12月11日(日)午後2時00分から午後4時00分まで

会場：札幌市ボランティア活動センター研修室B

《オンライン初心者(たとえば体調不安がある人、初参加の人)例会》

とき：11月25日(金)午後5時30分から7時30分まで

とき：12月21日(水)午後6時00分から8時00分まで

開催のご案内は随時、当NPOのホームページで公開していきますのでご確認ください。

12月21日の例会は「SANGOの会15周年記念オンライン企画イベント」を開催します。

◆居場所「よりどころ」開催のご案内(11月~12月)

(当事者会) 11月21日(月)※

12月5日(月)※ 14日(水) 19日(月)※

(親の会) 11月28日(月)※

12月7日(水) 12日(月)※ 26日(月)※

開催会場：北海道立道民活動センター「かでる2.7」10階1030会議室

(札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル) JR札幌駅南口から徒歩13分

開催時間：午後1時30分から午後3時30分まで(短縮開催)

《オンライン当事者・親の会》

(当事者会) 11月16日(水) 12月28日(水)

(親の会) 11月23日(水/祝) 12月21日(水)

開催時間：午後1時30分から午後3時30分まで

利用対象：ひきこもり当事者及びその家族

参加費：無料 事前申込不要 直接会場にいらしてください。オンラインは、事前申し込みが必要です。

※印の日は、ひきこもり地域支援センター相談員の参加予定日です。

◆ピアスタッフによる当事者性を活用したひきこもり支援拠点運営事業11~12月の開催予告

居場所「ヒュッゲ」11月17日(木) 12月15日(木) 会場：小樽市生涯学習プラザ「レピオ」

居場所「シエスタ」11月30日(水) 12月22日(木) 会場：江別市総合社会福祉センター

居場所「とまとま」12月1日(木) 会場：苫小牧市民活動センター

開催時間：午後2時00分~4時00分

参加費：無料 事前申込不要 直接会場にいらしてください。

☆編集後記☆

私事となりますが、今年一年間に両親の見送りをしました。当面しなければならないことや今後のことなどまだまだあります。これを契機にして今まで以上に兄弟姉妹の協力関係が強まりました。

(発行責任者 理事長 田中 敦)